

修学支援の状況

(2015年度)

学部・研究科名	修学支援の状況
総合人間学部	学部では、学生の単位修得状況を把握し、修得単位数が少なく、今後の順調な学生生活の継続が危ぶまれる学生に対しては、クラス担任制や教員アドバイザー制を活用した対策をとっている。クラス担任(1回生)や教員アドバイザー(2・3回生)、指導教員(4回生)が面談等で学生と直接に接触して、学生の状況を詳細に把握するとともに、今後の学習に対してアドバイスを与えている。また、学生がさまざまな悩みを相談できる場として、学生相談室の設置について検討を行い、2016年度からの設置に向け準備を行った。
文学部	「文学研究科学生支援プロジェクト」として、若手研究者(OD, PD)のスタッフが、学習、生活、研究環境、進学、就職、留学、外国語による論文作成・情報交換、研究者として自立の道など学生たちが抱えている課題や悩みの相談にのったり、支援を行い、学習や研究を進めるうえで役立つ様々の事柄を身につける手助けをおこなっている。
教育学部	毎年、各学年別に履修ガイダンスを実施している。ゼミに所属していない1・2回生については、クラス担任を2名ずつ設けている。また、相談窓口として各系ごとに学生委員が置かれている。休学者や最短修業年限超過者については、その理由を把握し、問題がみられる場合は指導を行っている。毎年、成績不振者の調査を行い、成績不振の学生には、指導教員・クラス担任・教務委員会委員などから指導を行っている。
法学部	・法学部生のために学習室を(平日9:00～20:00、土曜9:00～17:00)開放している。・初年次ゼミとして「法学部基礎演習」を1年生に開講し、法学・政治学を学ぶためのとりかかりとして、少人数による教育を行った。・成績が芳しくない学生に対して担当委員会の教員が個別に面談を実施した。
経済学部	新入生が経済学の学習に必要な基礎知識を習得する目的で、指定されたクラスでの「入門演習」を実施している。当該講義内において、出席状況を把握し、2回連続欠席した際には、担当教員や学生相談室教員から出席を促すメール送信、長期欠席者には面談等を実施している。
理学部	学生13名あたりに教員2名という形の少人数担任制度(平成15年度開始)により、新3回生の系登録(専門課程への分化と進級)までの間の学生の履修相談等に応じている。成績表を渡す際には面談を行ない、不適応が疑われる学生に対しては、保護者も含めての三者面談等の対応を取っている。また、希望者には成績表を保護者にも送付し、学生が学費負担者である保護者に対しての責任を自覚するように指導している。また、全学のカウンセリングセンターとは別に、臨床心理士を室員とする相談室を設け、学生の相談に答えられる体制を取っている。
医学部	医学部医学科においては、1・2年担当5名、3・4年担当5名、5・6年担当5名の学年担当教員を配置し、成績不振や学生生活に問題のある学生との面談、指導・助言に当たっている。授業科目の質問等は、シラバスに担当教員のメールアドレスを明記し、受け付けている。なお、平成27年度5回生から臨床実習期間におけるメンター制度を開始し、臨床実習1グループ(学生2～4名)にメンター1名を割り当て、実習中に3回のメンタリングを実施するとともに相談窓口となっている。人間健康科学科においては、全学生にチューター制度を採用している。チューター担当教員は定期的に学生との面談を実施し、修学や学生生活の悩みに対する指導・助言を行っている。特に困難を抱えた学生については、各専攻内で情報を共有するほか、教務事務や関係委員会(学生厚生支援委員会、教務・教育委員会)とも連携して支援する体制を取っている。
薬学部	1～3回生については、学生10人程度を1グループとするグループ単位で担任教員を配置し、学生の履修相談等に応じている。研究室配属された4回生以上の学生については、所属分野教員が同様に対応している。「学生相談室」を開設し、学生・院生だけでなく、教員や職員からの相談にも応じている。
工学部	勉学・研究・学生生活一般等の相談に教職員が応じる学生相談室を開設している。クラス担任、アドバイザー、チューター、指導教員等をクラス規模や回生(学年)に応じて配置し、学生の状況を詳細に把握するとともに、履修指導等を行っている。一年次科目の中から出席状況や成績をモニタリングする科目を設定し、各種データを大学での学修を軌道に乗せる指導に活用している。コースツリーの提示により、学生が身につけたい知識・能力と授業科目との対応関係を理解させ、体系的な履修を促している。
農学部	前期・後期の成績開示のときに、学科ごとに、1～3年は担任または学科長に、4年は指導教員に成績表を送付し、修得単位数が一定の基準に達していない学生については面談を行い、原因や修学状況の把握に努めている。研究室分属の際に参考にする「学科ガイドブック」を作成し、分属までに履修しておくことが望ましい科目を示し、計画的な科目履修を促している。また、「学生相談室」を設け、週に一度、専門医が学生からの相談に応じ、適切な医療機関を紹介するなどを行っている。
文学研究科	「文学研究科学生支援プロジェクト」として、若手研究者(OD, PD)のスタッフが、学習、生活、研究環境、進学、就職、留学、外国語による論文作成・情報交換、研究者として自立の道など学生たちが抱えている課題や悩みの相談にのったり、支援を行い、学習や研究を進めるうえで役立つ様々の事柄を身につける手助けをおこなっている。
教育学研究科	科目の履修にあたっては、指導教員と相談のうえ履修計画を作成することになっている。研究題目により、修士課程では2名、博士後期課程では3名の複数の指導教員をつけて、研究指導を行っている。

学部・研究科名	修学支援の状況
法学研究科	【法政理論専攻】1. 学生1名につき正指導教員1名副指導教員2名の体制で、研究・教育・進路指導等の修学支援を行っている。2. 留学生支援に関しては、留学生担当教員として専任講師が配置されており、単に教育面に限らず生活面も含めて幅広く指導を行っている。 【法曹養成専攻】1. 教育補助スタッフ制度 1年次の法学未修者を対象に、助教及び法科大学院教育補助スタッフが学習支援を行っている。2. クラス担任制度 1年次及び2年次未修者を対象に、クラス担任を配置し、修学上の問題などの相談を行う。また、学習に困難を抱える学生に対して必要な指導を行っている。
経済学研究科	修士課程については、指導教員による指導学生のモニタリングを1回生後期終了時と2回生前期終了時に行い、モニタリングした報告書を提出することで、留年状況の把握及び要支援者の特定を行っている。博士後期課程については、毎年学生から指導教員経由で教務掛宛てに提出している「研究計画書」に論文作成の進捗状況報告を行っている。
理学研究科	複数指導教員制度を採用し、学生1名につき正副2名以上の教員で、研究指導、教育全般の指導、進路指導・補助その他学生の修学に関することの指導を行っている。また、全学のカウンセリングセンターとは別に、臨床心理士を室員とする相談室を設け、学生の相談に答えられる体制を取っている。
医学研究科	専攻や課程によって異なるが、教学に関わる担当委員会において、チューターや相談担当者を置き、修学等に悩みや問題を抱えている学生からの相談に対応する制度を設けている。また留年者については、留年した理由を指導教員から提出してもらい、担当委員会で何らかの対応が必要かどうか検討するものとしている。人間健康科学系専攻においては、指導担当教員が学生との面談を実施し、修学や学生生活の悩みに対する指導・助言を行っている。
薬学研究科	「学生相談室」を開設し、学生・院生だけでなく、教員や職員からの相談にも応じている。
工学研究科	学生相談室の開設。複数指導教員制の導入。テラーメイド・カリキュラムの実施。ポートフォリオによる個別指導の実施。履修モデルの提示。
農学研究科	大学院においては、複数指導教員制度により主指導教員と1～2名の副指導教員による研究指導及び学生生活上の相談を行っている。なお、必要に応じ、教務掛の窓口において現状確認や履修指導を行うことがあり、父母等からの学生の健康状態、不登校等に関する相談があった場合等にも個別に対応している。また、毎週半日、専門医による相談を受けることができる「学生相談室」を設け、学生の心身の悩みや教員からの相談に応じ、必要があれば適切な医療機関への紹介を行っている。
人間・環境学研究科	指導教員の他に学生の研究についてアドバイスする副指導教員、学生生活全般についてアドバイスするアドバイザーを制度として設けており、1人の学生に対して複数の教員が様々な点からの支援を行っている。
エネルギー科学研究科	1) 履修登録前に学生には履修計画(履修届)を指導教員に提出させており、指導教員はその履修計画(履修届)の内容を確認し適切な履修指導(修学指導)を行っている。2) 学生総合支援センターのカウンセリングサービスを学生や指導教員に周知し、不安を抱える学生への積極的利用を促した。また、各専攻の教務委員が中心となって問題を抱える学生を把握するとともに、問題を抱える学生の指導教員と連携し、当該学生に対して修学指導など個別指導を実施する体制を整えた。更に、研究科全体として共有を図るため、教育研究委員会において状況報告を行い、当該報告に基づき同委員会で要支援者への必要な措置を協議し、予防的措置として、ガイダンスでの注意喚起、保護者への連絡等を各専攻の教務委員・指導教員及び教務事務と連携して実施している。
アジア・アフリカ地域研究研究科	研究・調査を進め、博士予備論文(修士論文にあたるもの)・博士論文執筆のための研究指導が十分かつ円滑に行われるように、学生自身が選ぶ指導教員3名(主指導教員1名、副指導教員2名)による集団指導のシステムを採用している。主指導教員は、研究指導などのアカデミックな面だけでなく、各種の申請に関する同意・確認等、事務的な手続きに関することまで大学院生活の全般に関わる。副指導教員は、主として研究指導に関わる。
情報学研究科	情報学研究科での修学支援状況は以下の通りである。(1)一部の専攻(社会情報学専攻及び数理工学専攻)では、研究指導に関して複数アドバイザ制度を実施し、専門分野以外の国内外の研究者に修士・博士学生の研究指導アドバイスを受けられる制度を実施している。(2)研究科共通科目の講義の一部については予習復習に資することを目的として講義映像・教材アーカイブを作成しモバイル環境で閲覧できるシステムを開発し運用している。(3)日本語・英語コミュニケーション能力の向上のために集中セミナーを実施している。(4)基礎的な講義・演習科目には学生の理解を促すためにTAやOAを雇用し修学支援を行っている。
生命科学研究科	(1)複数教員による指導体制、(2)協定校への海外派遣及び海外の学会やシンポジウムへの参加支援、(3)学生企画による研究討論会への支援
総合生存学館(思修館)	メンター、研究指導教員、教育指導教員から構成される複数指導教員体制を構築し、5年間を通じてテラーメイド型教育をサポートする。
地球環境学舎	複数の指導教員による指導体制を取っている。また、インターンシップを単位化しているため、実施にあたってはきめ細かいガイダンス及び指導教員による指導が行われている。
公共政策大学院	各学生に履修指導教員を付し、研究者教員が担当している。一般選抜入学者に対し、進路指導教員を付し、実務家教員が担当している。
経営管理大学院	多種多様なバックグラウンドを持つ人材を受け入れ、多様なキャリア・アチーブメントを実現するために、スーパーバイザーを設置して、履修指導をはじめ、学修全般に関するサポートを行い、きめ細やかな教育体制を実現している。